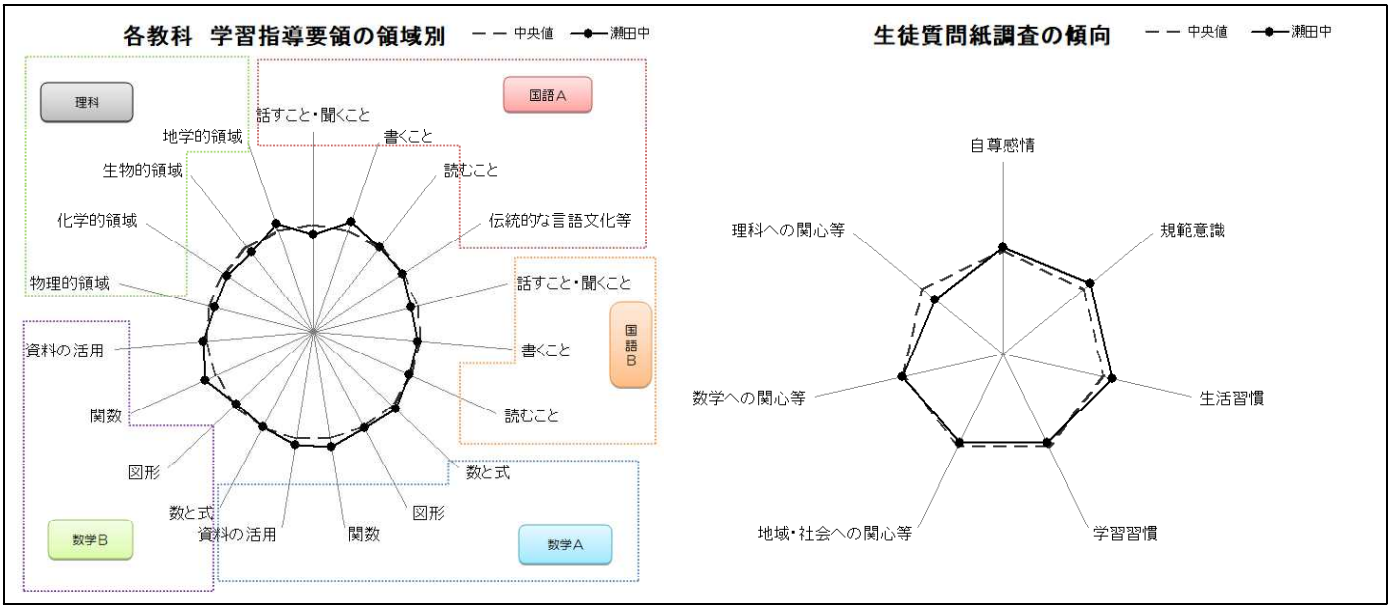
平成３０年度の全国学力・学習状況調査について、本校の状況がまとまりましたので、保護者の皆様にお知らせします。また、この結果を受けての今後の本校の取り組みについてもお知らせします。

【結果について】《概要》

学力状況については、数学Ａは全国平均正答率とほぼ同じ水準にあります。ただ、国語Ａ・Ｂ、数学Ｂ、理科に関しては全国平均正答率を少し下回る結果となりました。
項目別に見ると、国語Ａでは「書くこと」に関しては得意とする領域ですが、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、もっと伸ばし得意とさせたい領域です。
国語Ｂでは、「書くこと」、「読むこと」の領域をもっと伸ばし、改善に努める必要があります。特に「話すこと・聞くこと」に関する領域は国語Ａ・Ｂともにかなり課題があり、改善に努める必要があります。
数学Ａ・Ｂともに「資料の活用」、「関数」に関しては得意とする領域で、特に「関数」は全国水準から見ても得意とする領域でした。ただ、数学Ｂでの「図形」に関する領域はまだまだ力を入れる必要があります。
理科では「地学的領域」に関しては全国水準から見ても得意とする領域ですが、その他の領域は課題があり、改善に努める必要があります。
学習状況では、理科への関心に課題がありました。

《強み・弱み》
◇強み･弱みレーダーチャート◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは本校平均正答率の差に基づいて作成しました。
破線は本校平均正答率を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

平成２５年度より取組んでいる協同的な学び（学び合い学習）に加え、学習のめあてを明確にして行う学習活動の取組により、国語 Ａ における表現活動領域の書く力と、数学Ａ・Ｂにおける関数領域と理科における地学的領域に本校の強みが見られるようになりました。しかしながら、国語におけるコミュニケーション領域と数学･理科における記述問題に対して弱い傾向が見られるので、各教科での対策を講じていきたいと考えています。理科については今年初めての実施で、得たデータをもとに改善に努めていきたいと考えています。
また質問調査からは、自尊感情、生活習慣と規範意識についてほぼ全国水準にあることがわかりまだまだ課題があり､学習習慣の確立と学習意欲をさらに喚起する指導の継続的な取組が重要だと考えています。

【指導の充実に向けて】

昨年度から取り組んでいる以下の活動を今後も継続的に行っていきます。
□授業規律をより定着させるとともに、授業の工夫改善を図ることで言語活動を充実させ､「読む・書く」の力を高めていきます。
□授業での学習のめあて・振り返りの明確化により、生徒の学習内容についての意識を高め､「成果」「課題」の実感を持てるようにしていきます。
□授業でのＩＣＴの活用や生徒が考えて発表する機会を設けることに意識して取り組み、生徒が学習内容についての関心をもち「わかった」「できた」の充実感を持つようにしていきます。
□学級経営が学習基盤形成に重要であることを再認識し、どの生徒にとっても居場所のある、生徒同士のよりよい関係が保たれる学級作りに、全校体制で取り組んでいきます。
□生徒が学習や活動に意欲を持ち、将来を見つめてより良い中学生活を過ごすために家庭での学習の取り組み方や評価についての研究を進めていきます。